

生活科教育の推進とその成果と課題(上越)

1. はじめに

新学習指導要領の全面実施を受け、上越市の各学校では、その趣旨を実現すべく生活科の授業づくりが進められている。生活科の授業で具現したいのは、地域の「人やもの、こと」といった対象に働きかけ生き生きと学ぶ子どもの姿である。子どもは、生き生きと楽しく活動する中で、様々な気づきをし、それらについて言葉や絵など多様な方法を使って表現することによって気づきを自覚していく。

そこで、今年度は、市の学校教育研究会生活科部会を中心に「子どもが生き生きと学ぶ生活科の授業づくり」をテーマに、子どもの自発的な姿を生み出す環境構成、体験活動と結びついた表現活動に焦点を当て、実践を進めてきている。

2. 実践の経過

テーマに沿いながら、各校で着実な実践に取り組み、11月18日(金)に成果と課題をもち寄り実践紹介・情報交換会を実施した。そこでは、「子どもが生き生きと学ぶ生活科の授業づくり」に役立つ具体的な環境構成と表現活動について、2人の実践者から紹介をしていただいた。また、参加者が紹介された手法を体験する場も設定し、実践へのイメージと意欲を高めることができたようにした。

3. 実践紹介・情報交換会の内容

(1) 「生活科における表現活動について」 上越市立大手町小学校 杉田かおり 教諭

杉田かおり教諭からは、2年生で取り組んだ単元「大きくなるってことは」の実践紹介があった。本単元は、いわゆる成長単元と呼ばれるもので、従来は3学期に自分を振り返る学習が展開されている。しかし、本実践では、年間を通して、行事の後や、活動や学期ごとの節目に振り返りの場を設け、子どもたち一人一人が「大きくなる」意味を追究していくという展開で実践が進められていた。

2冊の絵本が活動のきっかけとなったこと、体験と表現のつながり、書くための視覚的な手がかりやズームアップする絵本としてのまとめ等、確かな見通しと豊かなアイデアに満ちた実践に魅了された。子どもたちがまとめたそれぞれの絵本には、自分自身の成長に気づき、喜びと自信を深めていく子どもたちの姿が溢れていた。

(2) 「生活科における環境構成について」 上越市立大町小学校 小林秀智 教諭

小林秀智教諭からは、生活科における環境構成について実践紹介があった。小林教諭は、幼稚園勤務の経験から、幼稚園における環境構成の大切さを説明し、そのことは、生活科の展開においても大切な視点となることを事例をもとに紹介した。環境構成に教師の願いや意図を込め子どもの自発性や能動性を引き出すことをとても大事に実践されていた。

また、幼稚園教育を踏まえたときに、生活科の環境構成では、「どのような場や空間にするか」「どのような素材に出会わせるか」「取り組める時間や雰囲気はどれだけあるか」等が大切であること、教師自身も重要な環境であり、活動の中で多様なかわりが求められていること等、生活科における教師の役割や支援の在り方を振り返る大変貴重な機会ともなった。



4. 成果と課題

二人の実践紹介とその後の協議、情報交換から次のことが確認された。

- ・これまで3学期に行ってきた振り返りの表現活動は、子どもにとっても教師にとっても非常に労力を要するものであった。そこで、1年間の振り返りを3学期にまとめてするよりも、大きな行事の後や各学期末など期間を区切って行う方が効果的に取り組むことができる。
- ・環境構成において重要なことは、その環境を具体的なねらいや内容にふさわしいものとなるようにすることである。幼稚園の環境構成に学ぶことで、環境を通して教育を行うということの大切さを教師自身が再認識することができた。
- ・子どもが生き生きと学ぶ生活科授業をつくっていくには、子どもの自発性や能動性を引き出す環境構成を工夫し、体験活動で生まれる気づきを自覚させるような適切な表現活動を位置付けていくことが大切である。

今後は、二人の発表で提案されたことや確認されたことを各校での実践に生かし、子どもが生き生きと学ぶ生活科の授業づくりにいっそう努めていきたい。

